

緩和ケアだより

平成28年度 第2号

イベント盛りだくさんの緩和ケアセンター

緩和ケアセンターが新体制となり、2年目になりました。がん診療連携拠点病院としての指定要件を達成するために、たくさんの取り組みが粛々に行われております。

【5月】



「第1回リンクナース会」

「基本的緩和ケアを担う看護師を育成し、各部署の緩和ケアの質の向上を目指す」ことを目的に、緩和ケアリンクナース会が立ち上がりました。

今回は「自部署における患者の苦痛のアセスメントに関する課題」をテーマに、グループワークで情報共有や課題抽出を行いました。リンクナースのみなさんが的確に自部署の状況を捉え、活発な意見交換が行われたことで、具体的な課題が明確になり、非常に有意義な時間となりました。これから課題解決に向けて、リンクナースのみなさんと協力しながら取り組んでいきたいと思っております。

各部署・病院全体の緩和ケア質向上のために、一步一步一緒に歩んでいきましょう！

「第1回緩和ケアセンター連絡会議」

こちらの会議も今年度から開催され、診療科はじめ各部署からたくさんの方々に出席していただきました。会に先立ち安藤センター長からこの会議においての皆様の役割について話されました。皆様の協力なしでは緩和ケアセンターの運営は成り立ちません。よろしくお願い致します。

「疼痛管理ポケットマニュアル」説明会

5月26日(木)17:30～多目的室にて医療安全管理部・薬剤部とのコラボレーションで説明会を開催することができました。

283名の参加者の方々は熱心にメモを取り聞いておりました。

日常業務の中でちょっとでも疑問を抱きましたら、ギュッと内容の詰まったポケットマニュアルを参考にしてください。

一人でも多くの患者さんが痛みから解放出来ますように、そしてインシデントができるだけ少なくなりますように、今回の説明会がお役に立てればと思います。



緩和ケアQ & A

Q. アブストラル舌下錠に関して、正しいものはどれでしょう(複数回答可)?

- 1: 舌下錠とは薬を歯と歯茎の間に挟んで服用するものである。
- 2: 本剤の開始用量は特に定められていない。
- 3: 1回用量の上限は800 μ gである。
- 4: 処方の際、含量の異なる本剤を同時に処方しない。

回答は裏です！



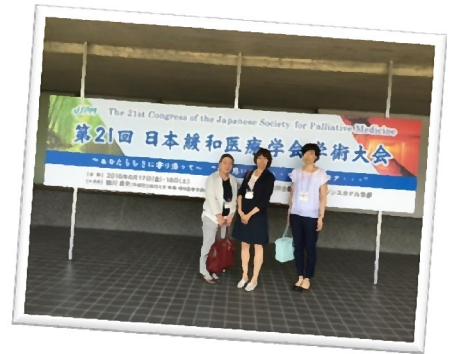
【6月】



「第21回日本緩和医療学会学術大会」

去る6月17、18日に、京都で行われた第21回日本緩和医療学会学術大会「早期からの緩和ケア」のセッションで、「苦痛のスクリーニング実施における現状と課題—大学病院外来での取組み—」のテーマで口演発表をさせていただきました。

全国のがん診療連携拠点病院等における共通の課題であり、活発な質疑応答が行われました。外来での取組みの困難や成果を伝え、今後入院患者さんへ拡大していくにあたっての課題を考察することができました。皆様のご協力、取組みへの努力に感謝いたしますとともに、一人でも多くのがん患者さんの苦痛緩和に役立てられるよう、体制整備に努めたいと思います。



「第2回緩和ケアセンター研修会」

6月3日(金)、講師に宮城県立こども病院 小児看護専門看護師 名古屋祐子氏をお招きし、「終末期がん患者を親に持つ子供のケア・終末期小児がん患者と家族のケア」をテーマに開催しました。

終末期の親を持つ子供の発達段階に応じた具体的なケアや、終末期小児がんの子を持つ親の思いについて特徴を捉えた内容で分かりやすく学ぶことができました。

院外からもたくさんの方々が参加してくださいました。



「市民公開講座」

昨年に引き続き2回目となりました市民公開講座を6月26日(日)に、がん相談支援センターと緩和ケアセンター共催で開催いたしました。80名ほどの参加者がありました。今回のテーマは「がんとうき合うために～治療と暮らしを両立させるためのヒント～」ということで講演とシンポジウムを行いました。秋田県が実施した就労支援の実態調査は興味深いものでした。また、患者さん自身からの体験談は心にしみ、聞くことができ良かったという意見が多く寄せられました。



答 え

- 1 : × バッカル錠の記載。バッカル錠は、全身作用を期待し、歯と歯茎の間に挟み、唾液により徐々に薬物を溶解させていく剤形である。舌下錠は名前の通り、舌の下に挿入して急速に溶かして口腔粘膜から吸収させて、急速な効果を期待する剤形である。
- 2 : × アブストラル舌下錠の開始用量は100 μ gであり、他のフェンタニル速放性製剤からの変更であっても必ずフェンタニルとして1回100 μ gから投与を開始する(フェンタニルの含量が同じであっても本剤と吸収が異なるため)。
- 3 : ○
- 4 : ○ 誤用防止のため、含量のことなる本剤を同時に処方しない。100 μ g、200 μ g、400 μ gの規格が存在する。